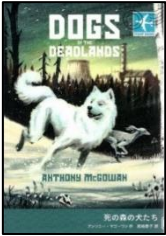
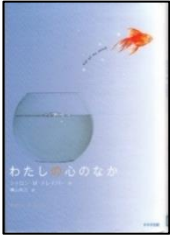
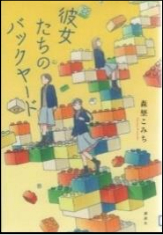
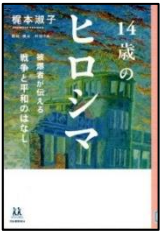
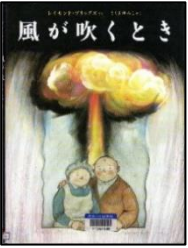


『杉森くんを殺すには』 長谷川 まりる//作　くもん出版（ＹＦハ） 高校１年の結愛は、「杉森くん」を殺すと決める。この決心を兄のミトさんに伝えると、やりのこしたことをやることと、杉森くんを殺さなきゃいけない理由を書いておくようにとアドバイスされる。結愛はそのアドバイスを実行するのだが、なぜ彼女は杉森くんを殺さなければいけないのか。 	『車いすでジャンプ!』 モニカ・ロー//作　小学館（Ｙ９３３ク） エミーは、生まれつき脊椎に障がいがあるため歩けず、車いすで生活している。そんな彼女は車いすでジャンプして宙返りしたり、スピードを出して走るのが好きで、今乗っている車いすより性能のいいものを買いたいと思っている。そのために自分でお金を貯めていたエミーだったが、これを知った学校がチャリティーで資金集めをしようと申し出てくれた。はじめはこれに喜んだエミーだったが、徐々に気持ちがすっきりしないことに気づく。彼女は集まった資金をどうするのか？ 	『バンピー』 いとう みく//著　静山社（ＹＦイ） 成は高校２年生で、妹が３人いる。母親は３年前に他界し、父親は５か月前にふらっと家を出て行ったきり帰ってこない。おばの小春に手伝ってもらいながら成は家のことや妹たちの面倒をみていた。そんなあるとき、スーパーから妹が万引きしたという連絡が入る。成が急いでスーパーに行くと、そこにいたのは 蛍と名乗る初めて会う母親違いの妹だった。 電子図書館でも読めます 	『アナタノキモチ』 安田 夏菜//著　文研出版（ＹＦヤ） ひよりには、ハルといういとこがいる。ハルは５歳のとき母親に置き去りにされ、それから二世帯住宅になっているひよりの家の１階で祖父母と暮らしている。ハルには、脳の一部が働いていないために人の気持ちを読み取ることが苦手という特性があるのだが、ひよりは５年生のころにあった出来事をきっかけに人の気持ちがわからないのはハルだけなのだろうかと考えてしまう。 
『あした、弁当を作る。』 ひこ 田中//著　講談社（ＹＦコ） 日下部龍樹は中学１年生。夏休み明けのある日、母親から背中を触られることが突然嫌になる。すると母親が作るお弁当すらも食わなくなってしまう。一体この気持ちが何なのか龍樹にはよくわからない。そこで彼が気持ちを整理するために思い付いたのは、母親任せだった弁当作りを自分でやることだった。しかし、両親から弁当作りを反対されてしまう。 電子図書館でも読めます 	『死の森の犬たち』 アンソニー・マゴーワン//作　岩波書店（Ｙ９３３シ） ゾーイは、ナターシャの７歳の誕生日プレゼントとしてやってきた子犬。しばらくしてチェルノブイリ原発※で事故が起き、ナターシャは泣く泣くゾーイを残して避難する。置き去りにされたゾーイは、やがて生まれたミーシャとブラタンの２匹の子とともにオオカミやヤマネコなどの生き物たちと激しい闘いをしながら生き延びていた。ゾーイとその子たちの生き残りをかけた冒険の物語。 ※本書に登場するまをを使いました 	『ケモノたちがはしる道』 黒川 裕子//作　静山社（ＹＦク） 千里は東京に住む中学１年生。ゲームの動画投稿を友達とするのが趣味というイマドキな女の子だ。ある日、千里は料理に使う手羽先に羽毛が残っていたのを見て気持ち悪いと思う。それを見た母親は、故郷の熊本で猟をしている祖父の家に行くことを提案する。猟で仕留めた獣たちが肉になる様子を見た千里はどう変わるのか？ 電子図書館でも読めます 	『野生生物は「やさしさ」だけで守れるか?』 朝日新聞取材チーム//著　岩波書店（Ｙ４８０ヤ） 絶滅危惧生物を保護したり、外来種を駆除したりするなど野生生物と向き合う人々を取り上げ紹介する本。そこで見えてきたのは生物の命と向き合うことの難しさに悩む人々の姿でした。 

『わたしの心のなか』 シャロン・M.ドレイパー//作　鈴木出版（Ｙ９３３ワ） メロディはもうすぐ１１歳になる女の子。脳性まひのため、体を思うように動かせず、話すこともできないが、実は彼女はさまざまな言葉を覚え、体験したことも記憶していた。しかし、まわりにはそれを理解されず、メロディはもどかしく思っている。そんな中、彼女は「メディ・トーカー」という自分の代わりに話してくれる機械を手に入れる。この機械を使うことでまわりの理解を得ることはできるのか。続編『わたしの心のきらめき』もどうぞ。 	『彼女たちのバックヤード』 森埜 こみち//作　講談社（ＹＦモ） 中学３年生の詩織、千秋、璃子はクラスメイトで友人どうし。あるとき、詩織と千秋が璃子の家に遊びに行ったときの出来事がきっかけで三人の仲がぎくしゃくしてしまう。しかし、その後、お互いが抱えている家庭の事情などが明らかになるなか、三人は再び友人関係を修復しようとする。 電子図書館でも読めます 	『ソノリティ はじまりのうた』 佐藤 いつ子//著　KADOKAWA（ＹＦサ） 中学１年の早紀は、音楽が好きという理由だけで吹奏楽部に入部したのだが、部活が吹奏楽部というだけで誰もなりたがらなかった合唱コンクールの指揮者に指名されてしまう。しかし、おとなしい早紀は自分の意見を積極的に伝えられず、指揮者としてクラスをまとめられない。そんな中、優勝を狙うために伴奏者の音心は曲の途中でアルトの晴美と早紀のふたりだけで歌うことを提案する。はたして合唱コンクールの結果はどうなるのか？ 
--	--	--

『よだかの星』 宮沢 賢治//著　三永 ワヲ//画　文研出版（ＹＦミ） 醜いためにまわりの鳥たちから嫌われていたよだか。あるとき鷹から名前を「市蔵」に変えるようにと迫られ、変えなければ殺すとまで言われてしまう。さて、よだかはどうするのか。 	『１４歳のヒロシマ』 梶本 淑子//著　河出書房新社（Ｙ３１９ジ） １４歳のときに広島で被爆した著者は、７０歳のとき家族からのすすめで被爆体験証言者となります。そんな著者が体験した８月６日の広島の様子、戦後の厳しい生活や、平和への強い思いが語られた本です。 	『風が吹くとき』 レイモンド・ブリッグズ//さく　あすなる書房（７２６カ） 核爆弾により平穏な暮らしを奪われた老夫婦の話。あるとき老夫婦のもとに新たな世界戦争が始まり、核爆弾が落ちてくるという知らせが入る。ふたりは政府に言われたとおりに核シェルターをつくり被害を防ごうとするが、爆弾は容赦なくふたりを襲う。核兵器の恐ろしさが伝わる絵本。 	『天動説の絵本』 安野 光雅//著　福音館書店（Ｅア/テ） 天動説が信じられていた時代。人々は、人間の力ではどうにもならないことは天の神さまに祈るしかありませんでした。そんな時代に生きた人たちの暮らしをこの絵本で見ましょう。 
--	--	---	---

へきなん電子図書館

スマホやタブレットがあればいつでもどこでも本が読めます！

★だれが使えるの？

→図書館の利用者カードを持っていて、碧南市に住んでいる、または碧南市内の学校に通っていたり、働いている人です。

★どうやったら使えるの？

→碧南市民図書館 HP から「へきなん電子図書館」にアクセスして、ログインすると使えます。ログインにはパスワードがいりますので、利用者カードを作るときに申請をしてください。また、メールアドレスも必要なので、自分で登録することも忘れずお願いします。（パスワードの登録は利用者カードを作った後でもできます。わからないことがあったら図書館のスタッフに声をかけてください。）

こちらの QR コードを読む込むとアクセスできます

